

<事務局便り>

平成 27 年度炉物理部会運営委員

(各役職の担当内容については、運営小委員会内規をご覧ください。)

氏名	役職	所属
吉岡 研一	部会長 (任期 1 年)	東芝
小原 徹	副部会長 (任期 1 年)	東京工業大学
平岩 宏司	庶務幹事 (任期 1 年)	東芝
西山 潤	庶務幹事 (任期 2 年)	東京工業大学
北田 孝典	部会等運営委員会担当運営委員	大阪大学
高木 直行	編集委員会担当運営委員	東京都市大学
奥村 啓介	HP 担当幹事	原子力機構
小嶋 健介	HP 担当幹事	原子力機構
多田 健一	HP 担当幹事	原子力機構
菅原 隆徳	財務小委員会担当幹事 (任期 1 年)	原子力機構
遠藤 知弘	財務小委員会担当幹事 (任期 2 年)	名古屋大学
佐野 忠史	編集小委員会担当幹事 (任期 1 年)	京都大学原子炉実験所
小玉 泰寛	編集小委員会担当幹事 (任期 2 年)	原子燃料工業
小原 徹	セミナー小委員会担当幹事 (任期 1 年)	東京工業大学
西山 潤	セミナー小委員会担当幹事 (任期 1 年)	東京工業大学
羽倉 尚人	学術交流小委員会担当幹事 (任期 1 年)	東京都市大学
鈴木 伸英	学術交流小委員会担当幹事 (任期 2 年)	三菱重工業
卞 哲浩	学術交流小委員会担当幹事 (RPHA 担当)	京都大学原子炉実験所
相澤 直人	学生・若手小委員会担当幹事 (任期 1 年)	東北大学
木村 礼	学生・若手小委員会担当幹事 (任期 2 年)	東芝

平成 28 年度炉物理部会運営委員

(各役職の担当内容については、運営小委員会内規をご覧ください。)

氏名	役職	所属
小原 徹	部会長 (任期 1 年)	東京工業大学
日野 哲士	副部会長 (任期 1 年)	日立製作所
西山 潤	庶務幹事 (任期 1 年)	東京工業大学
藤村 幸治	庶務幹事 (任期 2 年)	日立製作所
北田 孝典	部会等運営委員会担当運営委員	大阪大学
高木 直行	編集委員会担当運営委員	東京都市大学
奥村 啓介	HP 担当幹事	原子力機構
小嶋 健介	HP 担当幹事	原子力機構
多田 健一	HP 担当幹事	原子力機構
遠藤 知弘	財務小委員会担当幹事 (任期 1 年)	名古屋大学
郡司 智	財務小委員会担当幹事 (任期 2 年)	原子力機構
小玉 泰寛	編集小委員会担当幹事 (任期 1 年)	原子燃料工業
相澤 直人	編集小委員会担当幹事 (任期 2 年)	東北大学
日野 哲士	セミナー小委員会担当幹事 (任期 1 年)	日立製作所
藤村 幸治	セミナー小委員会担当幹事 (任期 1 年)	日立製作所
鈴木 伸英	学術交流小委員会担当幹事 (任期 1 年)	三菱重工業
岩元 大樹	学術交流小委員会担当幹事 (任期 2 年)	原子力機構
卞 哲浩	学術交流小委員会担当幹事 (RPHA 担当)	京都大学原子炉実験所
木村 礼	学生・若手小委員会担当幹事 (任期 1 年)	東芝
左近 敦士	学生・若手小委員会担当幹事 (任期 2 年)	近畿大学

日本原子力学会炉物理部会第 43 回全体会議 議事録

第 43 回炉物理部会全体会議が開催され、部会賞表彰、審議事項等について審議および報告が吉岡部会長司会のもと行われた。以下にその結果を記す。

日時：平成 27 年 9 月 10 日 (木) 12:00-13:00

場所：日本原子力学会 2015 秋の大会 A 会場 (静岡大学静岡キャンパス共通教育 A 棟 A101)

1. 平成 27 年度炉物理部会賞表彰式

下記 3 名の表彰が行われ、部会長より表彰状授与を行った。

受賞内容と受賞者名：

「小型高温ガス炉の受動的崩壊熱除去のための設計条件の研究」

Odmaa Sambuu (オドゥマー サンブー) 氏 (東京工業大学)

「ランダムサンプリング法を用いた断面積調整法の研究」

渡邊 友章氏 (日本原子力研究開発機構)

「燃料組成変動に対する高速炉炉心設計手法の研究」

丸山 修平氏 (日本原子力研究開発機構)

2. 平成 28 年春の年会での企画セッションについて

学術交流小委員会担当幹事より、題記の報告がなされ、報告通りの内容で承認された。

3. 「炉物理部会規約」「炉物理部会内規」「炉物理部会表彰内規」の変更に関する審議、

および「炉物理部会運営小委員会運営要領」の変更に関する報告

担当幹事より題記の報告がなされた。規約と内規については報告通りの内容で承認された。

要領については用語不統一との指摘があり、さらに改訂することとした。再改訂結果についてはメールにて審議することとした。

4. 平成 27 年度予算実績および平成 28 年度予算案報告

財務小委員会担当幹事より平成 27 年度予算執行状況と平成 28 年度予算について報告された。PHYSOR の残金の有効な充当を検討してほしいとの意見があり、検討することとした。

5. 第 47 回炉物理夏期セミナー、若手研究会報告(セミナー小委員会担当幹事他)

セミナー小委員会担当幹事より第 47 回炉物理夏期セミナー開催状況について報告があった。44 名参加 (内 22 名が学生)、海外からや留学生も参加し、全て英語での発表・質疑を行った。会計は黒字となり、残金 6 万円であり 5 万円が部会収入になる。

6. 四部会合同日韓サマースクール報告 (学術交流小委員会担当幹事)

学術交流小委員会担当幹事から四部会合同日韓サマースクールの開催計画について、次回韓国で開催するとの報告があった。

7. 日中韓ワークショップの準備状況

学術交流小委員会担当幹事から日中韓ワークショップ開催計画について報告があった。キーノートスピーチは部会長と関本先生に依頼したとの報告があった。

また、5名の学生から RPHA2015 への旅費の補助の申請があったとの報告があり、旅費の補助について承認された。

8. 「炉物理の研究」第68号の発行状況

編集小委員会担当幹事より「炉物理の研究」第68号の発行準備状況について報告があった。掲載希望記事があれば、幹事まで申し出るよう説明があった。

9. 炉物理夏期セミナーテキスト公開について

HP担当の代理説明者から炉物理夏期セミナーテキスト公開について、電子化を外部委託する場合やOCR結果を人が確認する場合の費用について説明があった。また、データ公開に関する懸念事項について、すでに報告しているので確認してほしいとの説明があった。会場から、1978年以降については全てテキストを保有しており協力可能との提案があった。

10. その他

部会長より、炉物理部会賞 特別賞の創設について検討中であり今後提案していきたい旨説明があった。

YGN担当より、IYNC2016開催アナウンスがあった。

会場より情報交換会について、予定通り実施するので申込みするようにアナウンスがあった。

岡嶋理事より、「アゴラ」分科会の検討を踏まえて学会長の記者会見で提言を行う件に関連して、部会に依頼や宿題が出される可能性について予告があった。

以上

日本原子力学会炉物理部会第45回炉物理部会全体会議議事録

日時：平成28年9月8日(木)12:00-13:00

場所：日本原子力学会2016秋の大会 H会場 (久留米シティプラザ スタジオ3)

1. 平成28年度予算実績報告 (資料45-1)

財務小委員会担当幹事より配布資料45-1に基づき、平成28年度の予算及び前期の実績について報告がなされた。

2. 第48回炉物理夏期セミナー、若手研究会報告 (資料45-2)

セミナー小委員会担当幹事より、配布資料45-1に基づき本年度の夏期セミナーの報告が行われた。収支については、最終的に黒字となった。また学生・若手小委員会担当幹事から若手発表会について、一部英語での発表が行われ活発な質疑応答が行われたことが報告された。

3. 平成29年度予算案について (資料45-3)

財務小委員会担当幹事より、配布資料45-3の平成29年度予算案について説明がなされた。平成29年度は、4部会合同日韓サマースクールが韓国で開催、RPHA2017が9月中国開催など、イベントが複数あり、それに関連して学生・講師に対する旅費支援を一人当たり8万円を上限として6名分を計上した予算となっている。予算案の承認に関して、小原部会長より、規約上全体会議における承認が必要である旨が説明された。部会長、運営小委員会の機動性を上げることを目的として、全体会議で予算案の概要について承認をもらい、予算が必要な場合は、予算外申請として学会に申請することに関して、部会長及び運営小委員会に一任する旨の提案がなされ、予算案および予算外申請の運営小委員会への一任が承認された。

4. 平成29年春の年会での企画セッションについて (資料45-4)

学術交流小委員会担当幹事より次回の春の年会での企画セッションについて、事前にメールにてセッション案を募集したが意見がなかったため、以前の募集案をベースにした「ベンチマークの現状と課題」が提案された。深堀核データ部会長から前日の核データ部会全体会議において共催を望むことが了承されていることが紹介され、本件について炉物理、核データ部会共催の企画セッションの形で進めることになった。セッションタイトルについては、核データ部会と調整することとした。

5. 炉物理部会賞表彰細則の改正について (資料45-5)

小原部会長より部会表彰細則の改正について報告がなされ、文面の確認が行われた。

貢献賞を追加し、これまでの部会賞は奨励賞として名前を変える内容となっている。前回全体会議において規約改正内容について再度説明が行われた。規約は全体会議で承認後、部会等運営委員会、理事会への報告という手続きとなっている。また以前は内規としていたものを細則と名前を変え、細則に関しては運営小委員会で決定後、全体会議で報告することとなっている。

6. 炉物理部会賞公募機会の延長について (資料 45-6)

小原部会長より炉物理部会賞について、応募期間中に応募がなかったことから、期間を延長する旨が報告された。奨励賞は年 3 名までであり、過去に選に漏れた方もぜひもう一度応募してほしいこと、また炉物理分野では論文が出にくいことを考慮し、若手をプロモーションすることや、論文に出ていないことに対しても炉物理におけるその貢献を表彰したいことが説明された。

7. 炉物理部会規約の改正について (資料 45-7)

小原部会長から活発な部会活動のために部会長、副部会長の任期を 2 年とする部会規約の改正について提案がなされた。現状の規約では任期を別に定めるとしているが、任期を定める細則などの規定がなく、部会長、副部会長を 1 年、他の運営委員 2 年で運用されている。これを 2 年とし、改正案を平成 29 年 3 月の部会全体会議で承認し平成 29 年 4 月より新体制とすることが説明された。炉物理部会からの代議員を部会長が兼ねている点が指摘されたが、ちょうど平成 29 年度が交代であることが確認された。このほか、予算の柔軟性に関する規約改定についても改正案を運営小委員会でとりまとめ、次回春の年会における全体会議で承認手続きを行うことが了承された。

8. 炉物理ロードマップのローリングについて (資料 45-8)

名大山本先生から、2012 年 3 月に作成した炉物理部会の「原子炉物理分野の研究・開発ロードマップ」のローリング (更新) について提案がなされ、概要及び予算について説明が行われた。委員会の設置、委員長 (山本先生)、委員の選出方法 (前回と同様に研究機関、民間、大学の中から代表的な方から 17, 18 名前後) について了承された。研究炉の寿命から考えると時間が残されていないことから研究炉に対して部会としてどう考えるか、大学研究炉や JRR3 と共同で行ってほしい。2012 年のロードマップがどのように使われたかなど出口戦略を含め、定期的なレビューを含めた仕組みについても議論の対象にしてほしいなどコメント・要望があった。

9. 群定数 ISO 規格化対応検討 WG 計画について (資料なし)

JAEA 須山氏から放射線防護につかう群定数の ISO 規格化対応検討 WG について説明が行われた。現在 ANSI の規格を ISO の標準にしたいという動きがあり、国内 JIS 規

格には該当規格がないため、ISO 規格が定まるとそれが基準となる。もし ENDEFNJOY の固有名詞が入った場合、FRENDY、JENDL が使えなくなる可能性がある。放射線工学部会の下に対策チームができる予定であり、核データ、炉物理も協力し、ワーキンググループができたときに参加し、必要な意見を言うこととなった。その際、代表を部会長指名で送ること、具体的な人選は須山氏に一任することが了承された。

10. その他

編集小委員会担当幹事より、「炉物理の研究」第 69 号の発行状況について、特集の原稿 1 件が上がっていないため発行が遅れたことと、近々発行予定と報告がなされた。

配布資料

- 資料 45-1 平成 28 年度炉物理部会収支報告
- 資料 45-2 第 48 回炉物理夏期セミナー報告
- 資料 45-3 平成 29 年度炉物理部会予算案
- 資料 45-4 平成 29 年春の年会での企画セッションについて
- 資料 45-5 炉物理部会賞表彰細則の改正について
- 資料 45-6 炉物理部会賞公募機会の延長について
- 資料 45-7 炉物理部会規約の改正について
- 資料 45-8 炉物理ロードマップのローリングについて

以上

編集後記

まず、謝罪から。部会報に穴を開けてしまい申し訳ございませんでした。

当時を振り返りますと、原子力関係法規の改正により私の所属している(いた?) 京都大学原子炉実験所(当時の名前)の KUR、KUCA とともに新規制基準適合評価作業に追われていました。深夜に変な作業もやりました。原稿をお願いしていた先生方がこれに関わっており、徐々にやつれていく姿を目の当たりにし、結局、お願いを取り下げた記憶があります。

一方で、炉物理研究のトレンドもこの前後で変わってゆきました。高速炉炉心設計のテーマが核変換に変わっていったり、共鳴計算・格子計算のコード開発が下火になり、不確かさ評価や統計的手法を利用した核特性評価が活発化しました。炉物理実験では臨界状態の実験から未臨界での実験が多くなりました。私自身も炉物理だけではなく、炉物理の知識を生かし核データ測定や非破壊分析技術開発に研究の幅を広げました。研究の幅を広げたことにより、今までは交流の無かった研究者たちと研究・議論する機会が増えました。彼らの考え方を知るにつれ、炉物理研究を別の視点で見ることが出来るようになりました。この経験を少しでも炉物理研究にフィードバックできれば良いと考えております。

以上、今後とも炉物理研究の発展に微力ながら貢献したいと考えております。

(もう二度と編集後記を炉物理部会総会で書くようなことはいたしません)

京都大学複合原子力科学研究所
佐野忠史